広野地区（R1.12.21）

組長活動の再点検！

2018レポート　⇒　**現組長へのアンケート**
（組長経験者への聞き取り）

⇒　**今後の活動の指針！**

チーム広野
土井正純・田中正美

2018レポート ⇒ 具体化

①「防災訓練において、組単位の安否確認」
⇒ 平成30年度、令和元年度実施済！

②「ひろの応援団」によるサポート
・組長、役員経験者などを含む有志集団
（55～65歳　平均59歳）
・地元に貢献したいという思いを共有する。

⇒ 広野ふれあいフェスティバル
（各丁目ごとに、出店、盆踊り、各種催しなど）

負担が大きいチームへのサポートを実施！

今年の取り組み内容

① 組長アンケートの実施・集計

② 広野ふれあいフェスティバル

・実施時期、内容、各丁目の負担軽減
（2020 オリンピックの開催時期）

③ 長田南連合自治会運動会

・他地区への報告（働きかけ）、検討

④ その他；様々な不満、提案への対応

組長へのアンケート実施

目的：組長の仕事の大変さを
「見える化」して分析する

対象：全組長＋役員･評議委員（９８名＋31名）

実施時期：2019年　10/12～10/20
※回収93枚。回収率72%

項目：各業務の負担度合い（５段階評価）
組長の選出、総会、集金活動、回覧板、清掃活動、
防災関連行事、運動会、缶ビン回収場所の整理…
その他自由記載
困っていることや、工夫していること

組長アンケートの結果（記述内容より）

【1】広野ふれあいフェスティバル

・高齢であるため、きつかった。（多数）
・実施時期、内容を検討してほしい。（多数）
・1日中出席するのは大変だった。半日にしてほしい。
・応援団のサポートはとてもありがたかった。
・イベント時に結束が強くなったと思う。疲れたが楽しかった。
・町内会活動は大変だが、想定外な事が起きた時、とても重要。

【2】連合自治会運動会（広野、用宗、石部など）

・高齢な組長が多く、選手集めが大変。関心が薄い。（多数）
・若い人が少ないので、選手集めに苦労した。（多数）
・毎年出場してくれる人にまず依頼。
・組長自らが出なければならないほど、他の人が出ない。
・子供会を含め、やる気のある人が多いのか疑問。
・自分は関係ない、誰かがやるだろうと思っている人が多い。

その他（記述内容より）

【3】集金活動

・留守の家が多くて大変。
・組によって様々な工夫がなされている。
・年に1回の徴収で済んでいる。
・留守宅には、メモを置いて対応。
・年度初めに集めるので、その都度の対応はしない。

【4】組長の選出

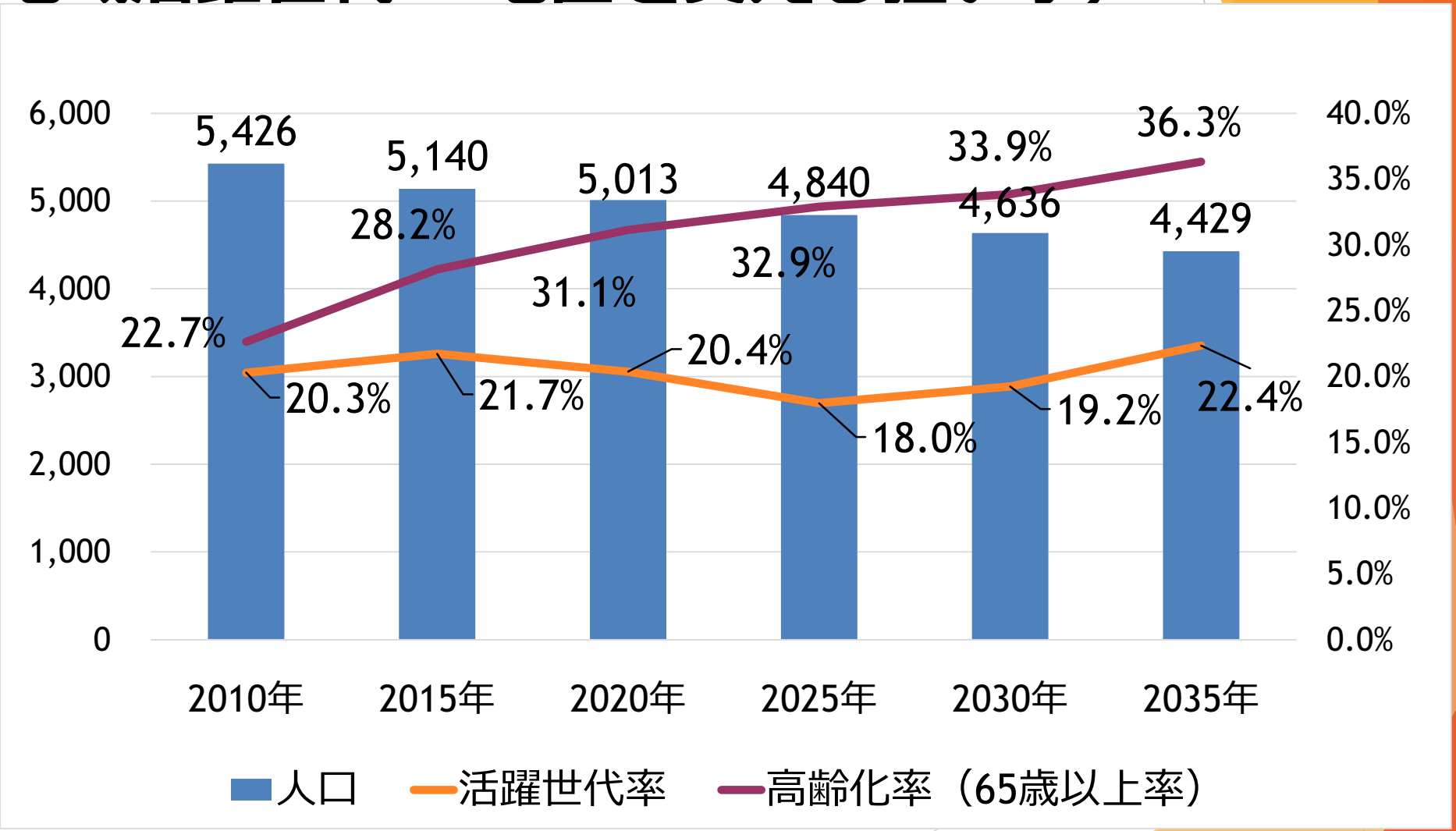
・高齢なため、次回は無理。
・組長は業務が多くて厳しいので、サポートが必要。
・世帯数が少ないので、他の組との統合が必要。
・共働きだと組長の仕事が多いと大変。
・組長のほかに副組長も検討すべき。

今後、町内会として取り組むべきこと

・対象を絞り、様々な試みを実施　⇒　他に活用
・調査結果　⇒　住民への周知、新たな提案

広野ふれあいフェスティバルについて

・実施時期；2020　東京オリンピック（8月）を避ける。
　5～7月の早期実施、11月は、文化展（継続）
・負担軽減策　　；2つの丁目で合わせて出店
（提案する予定）組長、評議委員の役割分担を軽減。
　全員、半日以上の割り当てをしない。
　応援団によるサポート

人口・高齢化率・地域活躍世代率（60歳-74歳）の推移

（地域活躍世代＝ 地区を支える担い手）